

栃木県はマレーシアで春節(旧正月)需要を狙い農産物の販促に乗り出した。高級スーパーなど6小売店で試食販売を実施するほか、栃木県産の農産物の写真を大きくあしらったトラックをクアラルンプール市内で運行させる。同国には中華系住民が多く、春節に向けて年末商戦が盛んだ。販促活動により、認知度向上と販売増につなげる。

年末商戦が本格化した1月15日から毎週末、試食販売をしている。期間は7日まで。中華系が訪れる現地

栃木産のイチゴやナシ



資本の高級スーパーや日系の総合スーパーなど計6店

県、マレーシアで売り込み

に、それぞれ1〜2人の販売員を配置。栃木県が開発した大きなサイズのナシ品種「にっこり」の甘さなどをアピールしてもらう。

首都クアラルンプールで現地の卸売業者に、にっこりや栃木県産イチゴの新品种「スカイベリー」の写真をあしらったコンテナを載せたトラックを3台、運行

栃木県産のスカイベリーをPRするトラックを走らせる

春節需要、中華系住民に的

してもらおう。期間は3月末まで。

事業費用として、昨年度の補正予算で1000万円を計上。物流業のユーユーワールド(宇都宮市)が受託。現地で卸売業者、小売店との調整や販売員の配置などを手がけている。

マレーシアには全国農業協同組合連合会(全農)の栃木県本部が昨年11月から、農産物の輸出を開始。にっこりを船便で累計100ト送っているほか、スカイベリーを累計数百ト、航空便で輸出している。